



IRYO

医療マンガ大賞

IRYO MANGA TAISHO

MANGA

視点の違いによる医療コミュニケーションギャップをマンガ化！ “自治体×マンガ専門家×医療従事者”の異業種コラボで創り上げるマンガ賞

横浜市では、市民の皆様に医療を「他人ごと」ではなく自分自身のことと捉えていただけるよう、民間企業等との連携による手法で医療広報を実施する「医療の視点」プロジェクトに取り組んでいます。このたび、マンガを活用した医療に関するコミュニケーションギャップの改善を目的に、患者や医療従事者が体験したエピソードに基づいて“視点の違い”を描くマンガ賞「医療マンガ大賞」の取組を開始します。

「医療マンガ大賞」とは？

同じ出来事でも、患者と医療従事者では受け取り方や感じ方が異なることに着目し、各々の視点からの捉え方をマンガ化することで、視点の違いに互いに気づき、共感を促進することを目指します。マンガには、ストーリーに沿って感情移入しやすいという特徴があり、近年ではスマートフォンで読むマンガ市場が成長しているなど、馴染み深い手法です。さらに「グラフィック・メディスン※」という概念が提唱されるなど、コミュニケーションギャップの改善に有効な手法であると考えます。

※グラフィック・メディスンは、2007年にイギリスのコミックス・アーティストであるイアン・ウィリアムズを中心に提唱された概念です。コミックス表現がどのように医療の領域を扱うことができるかを包括的に探る試みです。

「医療マンガ大賞」の詳細はホームページでご確認ください。



<主催>

横浜市医療局 医療局医療政策課 小川 亨 TEL：045-671-4813

<協力>

株式会社コミチ 株式会社メディカルノート

<イベントに関する問い合わせ先>横浜市医療局「医療マンガ大賞」広報事務局（代行：オズマピーアール）

TEL：03-4531-0212/FAX：03-5226-6410

MAIL：city.yokohama@ozma.co.jp

「医療マンガ大賞」トークセッション 開催概要

日時：2019年9月30日（月）17：30～19：00（受付開始17：00）

場所：BankART Station

（横浜市西区みなとみらい5-1 みなとみらい線新高島駅地下一階 [駅直結]）

プログラム：

医療マンガ大賞趣旨説明、医療とマンガの可能性をテーマにしたトークセッション、フォトセッションなど

対象：

【こんな方におすすめ】

- ・医療マンガ大賞への応募を検討しているマンガ家さん
- ・横浜市の医療のことや医療の視点プロジェクトに関心が有る方
- ・横浜市とSNS医療のカタチプロジェクトの取り組みに興味がある方

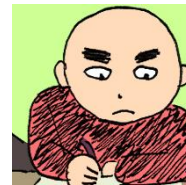
登壇者（審査員）：

佐渡島 庸平（㈱コルク代表取締役会長／編集者）



東京大学文学部卒業。講談社を経て、2012年クリエイターのエージェント会社、株式会社コルクを創業。三田紀房、安野モヨコ、小山宙哉ら著名作家陣とエージェント契約を結び、作品編集、著作権管理、ファンコミュニティ形成・運営などを行う。従来の出版流通の形のある先にあるインターネット時代のエンターテインメントのモデル構築を目指している。

こしのりょう（マンガ家）



2004年に「モーニング」で『NS'あおい』にてデビュー。2006年には同作品がテレビドラマ化された。2011年から「週刊現代」（講談社）で『町医者ジャンボ』を連載。2013年には同作品がテレビドラマ化。現在は「週刊現代」で『銀行渉外担当 竹中治夫』、看護雑誌で現場の看護師さん取材して描いている『はなうた』を連載中。

大塚 篤司（SNS医療のカタチ／医師・コラムニスト）



2003年信州大学医学部卒業。2012年チューリヒ大学病院客員研究員を経て2017年から京都大学大学院特定准教授。皮膚科専門医、がん治療認定医。2018年より、SNS時代の新しい医療の啓蒙活動を行う「SNS医療のカタチ」プロジェクト活動を行う。

井上 祥（㈱メディカルノート代表取締役・共同創業者／医師）



2009年横浜市立大学医学部卒業。横浜労災病院初期研修医を経て2011年より横浜市立大学大学院医学教育学・消化器内科学、2015年3月に医学博士。一般生活者の医療リテラシー向上を理念に大学院在学中の2014年10月に株式会社メディカルノートを創業し現在、代表取締役。横浜市立大学医学部非常勤講師。日本医療機能評価機構EBM普及推進事業運営委員。JAMSNET東京理事。